

丹波ひかみ農協の稲発酵粗飼料生産の取組

1 地域の概要

丹波ひかみ農協が管轄する丹波市は兵庫県の中央部から東部に位置し、京都府に県境を接しており、阪神間からは車で1時間程度の距離である。中山間地域も多くあるが、水稻、大豆などが盛んで農業は非常に恵まれた条件を持っている。畜産も盛んで、但馬牛の繁殖と肥育、酪農、採卵養鶏などの生産量が多い。

丹波市の繁殖和牛農家戸数は約110戸余りで、飼育頭数は成牛約1,100頭である。平均飼育頭数は約10頭/戸で、水稻等の他作物との複合経営が多い。



2 取組の経緯

平成12年度の国内での口蹄疫の発生や平成13年度のBSEの発生を契機に和牛改良組合が安全な自給飼料の安定的な確保の必要性を感じ、そのための収穫調整機械の導入支援を丹波ひかみ農協に要請した。

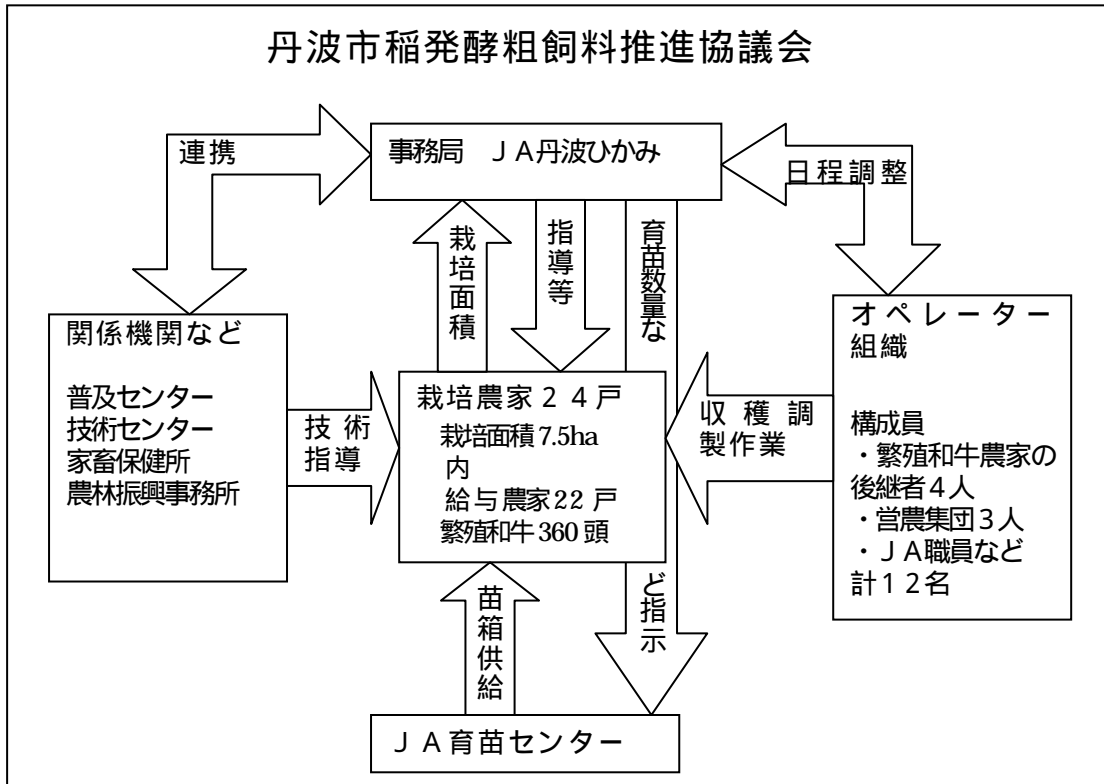
丹波ひかみ農協では、この要請を受け、平成14年度から自給飼料生産による安全安心な畜産物の生産とコストの低減、さらには米の生産調整の円滑な推進等を目的に飼料用稲の栽培、オペレーター組織による稲発酵粗飼料の収穫調整に取り組んだ。

3 取組内容

(1) 取組の拡大

年 度	1 4	1 5	1 6
面積(ha)	0.6 (試験栽培)	7.0	7.57
品 種	クサノホシ クサホナミ ホシアオバ	クサホナミ	

(2) 取組体制



育苗

農協が一括管理

苗の移植から栽培管理

和牛繁殖農家（19戸）と耕種農家が各自のほ場で栽培

耕種農家では直播栽培を実施

収穫調整機械

稲 WCS 用コンバイン、自走式ラッピングマシン、バールグラブ装着トラクタを農協が自己資金で導入（14,922千円）

収穫調整

刈り取り時期：9月下旬から10月上旬の10日間（糊熟期から黄熟期）

約2か月間発酵

和牛繁殖農家後継者グループと集落営農組合で組織したオペレータが作業実施。畜産農家の庭先に運ぶ。

給与方法

繁殖雌牛（成牛）に対し、5kgを上限に給与。

収量等

単位：収量；kg/10a、水分；%

品 種 名	作付面積	収 量	総 収 量	水 分
クサホナミ H15年総計・平均	660(a)	2,931 kg/10a	193(t)	68.9(%)
クサホナミ H16年総計・平均	757(a)	3,056 kg/10a	231(t)	66.9(%)

貯蔵態様別収穫量

サイレージの態様	ベールの形状	1ベールの重量 kg	総個数(個)	総収量 トン
ラッピングサイレージ H15年総計・平均	直径約1mの ロール	220	822	180.8
ラッピングサイレージ H16年総計・平均	直径約1mの ロール	220	1,036	227.9

平均的な栄養価(分析: 県立農林水産技術センター)

刈取ステージ	水分 (%)	乾物率 (%)	乾物中 (%)						
			粗蛋白	粗脂肪	NEF	粗繊維	灰分	DCP	TDN
乳熟期 平均	68.4	31.6	5.36	2.03	47.4	32.6	12.7	2.89	52.4
糊熟期 平均	65.4	34.6	5.31	1.93	49.1	31.5	12.2	2.87	49.1

料 金

作業料金 24千円 / 10a

耕種農家の生産ロールは3,000円で買い上げ、3,500円で畜産農家に販売。
助成制度と合わせて輸入乾草よりも安い値段で設定。

助成制度の活用

水田農業構造改革対策(耕畜連携推進対策)

国産粗飼料緊急増産対策事業(畜産振興事業)

3 今後の方針等

(1) 繁殖和牛への給与拡大

これまで取組のない繁殖和牛農家からの希望がでている。

畜産農家に聞き取りしたところ、非常に評判が良く、もっと欲しい、通年利用したいとのこと。

(2) 品種及び刈り取り時期の検討

生産面積拡大の最大のネックは、刈り取り時期に食用米の刈り取りと重なることがあること。

オペレータ組織の充実により対応。

(3) 酪農家は従来から飼料作物生産基盤があるので、稲発酵粗飼料への希望がない。

肥育農家では肉質への影響を恐れて希望がない。

(4) JA丹波ひかみでは畜産農家の家畜糞尿処理を円滑にするため、タヒロンマゼッターシステムを導入。

タヒロンバッグ(通気性のある600kgのバッグ)に糞と副資材を混合して詰めて数ヶ月発酵させる。

耕畜連携による堆肥を使った飼料作物生産振興を図る。